

事業報告書

1 支援団体名	特定非営利活動法人 九州流域連携会議
2 事業名称	第11回九州「川」のワークショップ in 熊本
3 実施日時	平成23年10月1～2日
4 実施場所	さがら村柳瀬構造改造センター
5 事業目的、内容及びその効果	(事業概要状況・内容)*できるだけ詳細に [目的] 九州の水環境を守り、育み、創るため九州各地の流域で活動する市民・団体や行政が一同に会し各々の活動や取組みの発表を通し意見や情報を交換・交流することで「いい川」とは「いい川づくり」とは何かを探りよりよい水環境を育むとともに水防災意識の向上を検討する。 [内容][実施方法] <10月1日(土曜日)> 12:00受付～13:00開会式 オープニング 球磨川川下り 舟歌 開会宣言 実行委員長 前田一洋 挨拶 大会会長 駄田井正 熊本県球磨地域振興局土木部長 松尾 茂 開催市 相良村村長 徳田正臣 ○ステージ発表(大人の部・学生の部・子どもの部共通) ・1団体の発表時間は1団体につき3分、2分の質疑応答。 8団体で1グループとし、コーディネーターは1グループに2人(行政・民間)で、発表及び質疑の進行。 ・発表は、団体の活動や発表内容をまとめたパネルを事前に作成し、ステージに掲示して行った。 ・3分以内の自由発表で、歌踊り人形劇等工夫が凝らされ、複数での発表が多かった。 ・OHP、スライド、液晶プロジェクターを使った画像は、川や活動風景の写真3枚以内。 ○パネル発表(大人の部・学生の部・子どもの部共通) ・発表団体をグループごとに15分間、発表用に作成したパネルを使って屋台方式で発表し参加者は、ステージ発表に興味を持った団体の所に行き、発表者と活発な意見交換が行なった。広松賞受賞団体発表も紹介された。 <10月2日(日曜日)> ○ステージ発表(学生の部) ○パネル発表(大人の部・学生の部) ○水環境活動への提案と報告(震災と防災と自立) ・近年の異常降雨や出水に対する防災意識の啓発や川づくりや防災体制づくりに関する報告と提案。 東北震災からの日常活動の今を報告:NPO法人水ネット東北 高橋万里子 川づくりの話題提供:国土交通省水管理・国土保全局治水課 宮本健也 災害多発の今、NPOの果たす役割と防災を考えた活動を検討しながら自立を探る。 ○全体討論会 ・水環境活動への提案と今回のワークショップを通して見いだされた活動や事業のキーワードを探り、これからの九州流域における豊かな自然と人間が共存していくための取組みを会場全体で論議。 エクスカーションは川辺川とんぼめぐり、球磨川川下り、ラフティング、五木村バスツアーと多彩。 (事業実施効果) [結果] 発表団体は、広松伝賞受賞招待団体の発表も含めて43団体の参加。参加者総数は二日間延約590名。 九州20河川の流域で活動する団体、関心のある個人、学識者、河川行政に携わる行政関係者が一同に会し情報交換交流する年一回の唯一の機会となっている。 例年九州7県を持ち回りし2巡目以降は現地実行委員会を中心に開催地の主体性と特徴を出せるように工夫し実施してきた。ダム問題で揺れたあの川辺川の袂で開催できたのもこれまでの継続したワークショップ事業が一つの役割を果たしている。取組を通じて行政との協働も推進され、長崎県、佐賀県と同様に、球磨川、川辺川流域も開催と行政の積極的な取組を通じてネットワーク化と行政との協働が推進されている。 今年度スローガン:山を育み、川と生き、海へと還る。そして未来……! とし、近年の異常降雨や出水に対する防災意識の啓発や川づくりや防災体制づくりに関する報告と提案を実施し、河川団体連携による防災ネットワークの構築推進を議論できた。また、現地子ども団体の参加も多く賑やかで明るい発表には勇気と元気をもらった。 運営進行は九州各県の関心を持つ学生21名ほどを中心に準備から当日二日全てを学生が主体となり推進運営し、河川への関心をさらに高める人材育成にもその役割を果たしてきた。それはワークショップ育ちの学生が今度は行政マンとして参加する姿に表れている。
6 参加内訳	参加総数245名 国土交通省・熊本県・相良村関係者除く 2日間延490名 国土交通省・熊本県関係者参加数25名 2日間延べ人数:50名 関り方:実行委員会及びコーディネーター 一般参加 (1)主催者参加 事務局スタッフ:4名、学生スタッフ21名 (2)日本人参加 295名(2日間延べ人数:590名) (3)外国人参加 0名(2日間延べ0人 他通訳0名)
7 今後の方針	例年九州7県を持ち回りし2巡目以降は現地実行委員会を中心に開催地の主体性と特徴を出せるように工夫し連携して実施してきた。 これまでも長崎県、佐賀県などで開催をきっかけに流域での活動団体のネットワーク化が推進されて来ている。これからも現地実行委員会でも地域テーマを議論し、地域と行政が協働し地域をを生かした新たなワークショップに取組み作り上げて行く。又、災害多発の近年、行政の積極的な取組もあり本省から水防災視点から川づくりの話題提供報告や震災東北からの報告があり災害多発の今、を生き抜く知恵とNPOの果たす役割を検討することができた。例年にない行政の参加が得られ益々の協働が実感できた。また、地域のイベントとの同時開催コラボを検討するなど経費の抑制や効率化、一般参加者も気軽に参加できるような工夫を検討していく。

受付



開会式



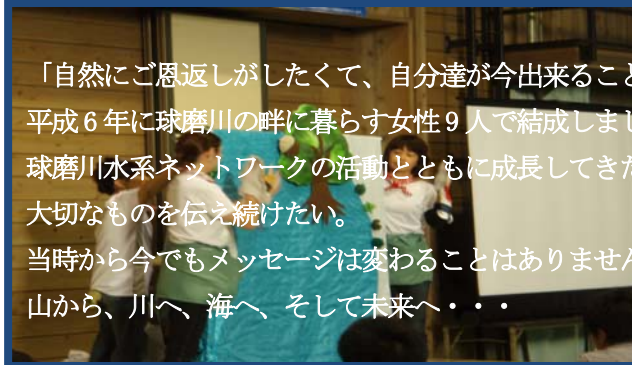
ステージ発表A・子どもの部



子どもの部パネル発表



やまんとろ♡かわんたろ劇場



清流交流会



全体討論会

